

2026年2月2日  
(1/6)

## ダイハツ、初の量産BEVとなる「e-ハイゼット カーゴ」、「e-アトレー」を発売



e-ハイゼット カーゴ 4シーター<オプション装着車>

e-アトレー RS <オプション装着車>

ダイハツ工業株式会社（以下、ダイハツ）は、軽商用車「ハイゼット カーゴ」、「アトレー」をベース車とした、ダイハツ初<sup>※1</sup>の量産バッテリーEV（BEV）「e-ハイゼット カーゴ」、「e-アトレー」を2月2日（月）から全国一斉に発売します。

ダイハツは1957年発売の軽三輪車「ミゼット」以降、全国津々浦々で、農林水産業、建設業、配送業など幅広い業種の方々の“働く相棒”として軽商用車を作り続け、トラックやバンのみならず、ダンプやパネルバン等の特装車まで、お客様のニーズにお応えするクルマを提供してきました。また、1960年代には他社に先駆け電気自動車を開発し、商用車の電動化にも積極的に取り組んできました。

足元では、カーボンニュートラル社会の実現に向け、物流のラストワンマイルや各産業を支える軽商用車にも電動化の期待が高まっています。「e-ハイゼット カーゴ」、「e-アトレー」では新開発の軽自動車に適したBEVシステム「e-SMART ELECTRIC」を搭載し、部品配置の見直しやボデー・サスペンションを新たに設計することで、室内スペースを変えることなく大容量バッテリーを搭載。軽キャブオーバーバンNo.1<sup>※2</sup>の積載スペース（e-ハイゼット カーゴ 4シーター）、使い勝手の良さなど、軽商用バンとしての魅力は継承しながら、軽商用BEVバンNo.1<sup>※3</sup>の一充電走行距離WLTモード（国土交通省審査値）257km<sup>※4</sup>を達成するとともに、運転者の負担軽減につながる、BEVならではの高い基本性能（走行性能、乗り心地、静粛性）も実現しました。

また、生産はダイハツ九州株式会社 大分（中津）第1工場で行います。同工場で長年取り組んできた軽乗用車と軽商用車に加え、少量多品種の特装車を生産する技術とノウハウを生かし、BEV専用設備を導入することなく、既存ラインでガソリン車の他車種と混流生産を実現しました。

ダイハツは今後もお客様の生活に寄り添った良品廉価な軽商用車を提供するとともに、物流業界のCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献することで、マルチパスウェイの考え方に基づいたカーボンニュートラルの実現を目指します。

※1：2026年2月時点。ダイハツ調べ。

※2：運転席前方にエンジン（モーター）ルームを持たない車体構造の軽貨物自動車として荷室長、荷室幅（4名乗車時）、荷室高でNo.1。2026年2月現在。ダイハツ調べ。自社および他社にも同数値の車があります。

※3：電気自動車（BEV）のうち、軽貨物自動車でNo.1。2026年2月現在。ダイハツ調べ。自社および他社にも同数値の車があります。

※4：一充電走行距離は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、渋滞等）や運転方法（急発進、エアコン使用等）に応じて一充電走行距離は大きく異なります。WLTモードは、市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モードです。

## 【コンセプト】

## 暮らしを守る働く車

- ・ガソリンを給油しに行く必要がなく、外出先でも電気を使え 「人にやさしい」
- ・走行中のCO<sub>2</sub>排出ゼロで 「地球にやさしい」
- ・従来のガソリンモデルと比べ、ランニングコストが低く 「財布にやさしい」

## 【主な特長】

- I. 軽キャブオーバーバンNo. 1<sup>※5</sup>の積載スペース(e-ハイゼット カーゴ 4シーター)や利便性はそのままに、「e-SMART ELECTRIC」の搭載により、運転者の負担軽減につながる高い基本性能と軽商用BEVバンNo. 1<sup>※6</sup>の一充電走行距離 WLT Cモード（国土交通省審査値）257km<sup>※7</sup>を実現
- II. 仕事道具の充電や、災害時にも安心なAC100Vの外部給電機能、さらにV2H（Vehicle to Home）<sup>※8</sup>にも活用できる急速充電インレットを全車標準装備
- III. 上質感を高めた乗商兼用で使える「e-アトレー」の設定

※5：運転席前方にエンジン（モーター）ルームを持たない車体構造の軽貨物自動車として荷室長、荷室幅（4名乗車時）、荷室高でNo. 1。2026年2月現在。ダイハツ調べ。自社および他社にも同数値の車があります。

※6：電気自動車（BEV）のうち、軽貨物自動車でNo. 1。2026年2月現在。ダイハツ調べ。自社および他社にも同数値の車があります。

※7：一充電走行距離は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、渋滞等）や運転方法（急発進、エアコン使用等）に応じて一充電走行距離は大きく異なります。WLT Cモードは、市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モードです。

※8：V2H機器を使用すればクルマのバッテリーに蓄えた電力を住まいに供給することが可能。別途、V2H機器の購入が必要。

## \* メーカー希望小売価格（消費税込み） \*

（価格は希望小売価格であり、参考価格です。価格は販売会社が独自に定めますので、詳しくは販売会社にお尋ねください。保険料、税金（消費税を除く）、自動車リサイクル料金、登録等に伴う費用等は別途申し受けます。）

## &lt;e-ハイゼット カーゴ&gt;

グレード	駆動	価格(円)
2シーター	2WD	3,146,000
4シーター☆	2WD	3,146,000

## &lt;e-アトレー&gt;

グレード	駆動	価格(円)
RS☆	2WD	3,465,000

☆写真掲載

\* 販売目標 \* 月間300台（2車種合計）

\* 生産工場 \* ダイハツ九州株式会社 大分（中津）第1工場

## \* 車両概要 \*

### I. 新開発のBEVシステム「e-SMART ELECTRIC」

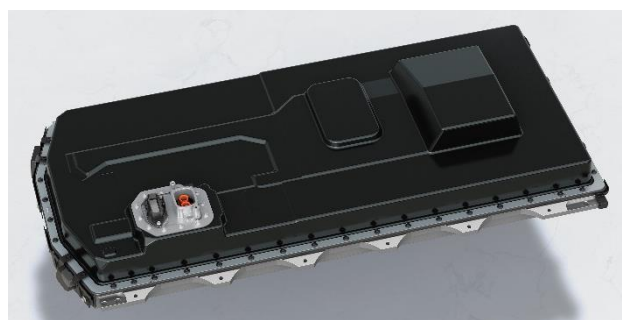
- ・スズキ株式会社とダイハツが培った小さなクルマづくりのノウハウと、トヨタ自動車株式会社の持つ電動化技術を組み合わせ、3社で共同開発したBEVシステム
- ・モーター、インバーター、減速機を一体化した「e Axle（イーアクスル）」を後輪駆動軸上に搭載するとともに、大容量36.6kWhの薄型リチウムイオンバッテリーを床下に配置



e-SMART ELECTRIC（イメージ図）



e Axle（イーアクスル）



大容量リチウムイオンバッテリー

#### 1. BEVならではの高い基本性能（走行性能、乗り心地、静粛性）

##### （1）レスポンスの良い加速性能とスムーズな走行性能

- ・走り始めから余裕のあるトルクを発揮可能で、また適度な回生ブレーキにより、電費の向上と運転のしやすさを両立
- ・後輪駆動軸上に配置した「e Axle」により、多積載時や登坂時でも、後輪駆動の高いグリップ力による力強い発進とスムーズな加速を実現

##### （2）低重心化による安定した走行と乗り心地

- ・薄型大容量バッテリーを床下に配置することで、従来のガソリン車よりも低重心となり、操縦安定性が向上し、荷崩れなども防止可能
- ・BEV専用の骨格補強などで車両剛性を高めるとともに、新設計のトレーリングリンク車軸式コイルスプリング（リヤ）などを採用し乗り心地を向上

##### （3）高い静粛性

- ・100%モーター走行により、室内はもちろん、早朝・深夜の走行や住宅街での頻繁な駐停車にも安心な静粛性を実現し、運転者のストレス低減にも寄与

## 2. 軽商用BEVバンNo. 1※<sup>9</sup>の一充電走行距離

- ・安全性が高い「リン酸鉄リチウムイオン（LFP）電池」を採用
- ・電池容量は36.6kWh※<sup>10</sup>と大容量で、一充電走行距離 WLT Cモード（国土交通省審査値）257kmを実現※<sup>11</sup>
- ・エアコンなどで電力消費が増加する夏季や冬季でも、多くの軽商用バンユーザーにとって十分な走行距離を確保
- ・ガソリン代に比べ走行に係るコストが低く、毎日同程度の距離を走行する場合は経済的。また、オイルなどの消耗品が少なくメンテナンスの手間が省けるためランニングコストも低く、長期保有でも安心

※<sup>9</sup>：電気自動車（BEV）のうち、軽貨物自動車でNo. 1。2026年2月現在。ダイハツ調べ。自社および他社にも同数値の車があります。

※<sup>10</sup>：国連危険物輸送勧告の定義に基づき算出。

※<sup>11</sup>：一充電走行距離は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、渋滞等）や運転方法（急発進、エアコン使用等）に応じて一充電走行距離は大きく異なります。WLT Cモードは、市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モードです。

## 3. BEVの嬉しさを広げる全車標準装備機能

### （1）日常から、もしもの時まで幅広く役立つ外部給電機能を全車に標準装備

- ・走行時でも使えるAC100Vで最大消費電力の合計が1500W以下の電気製品が使用可能なアクセサリーコンセントを装備
- ・加えて災害時などで電力が必要な時は、車両の走行機能を停止した状態で給電ができる非常時給電システムも搭載
- ・付属の外部給電アタッチメントを使用すれば、フロントドアとドアガラスを閉めた状態でも車外に電源コードを引き出して給電が可能



アクセサリーコンセント  
(AC100V・1500W/1個/非常時給電システム付)



外部給電アタッチメント

### （2）急速充電やV2H（Vehicle to Home）で使用可能な「CHAdeMO（チャデモ）」規格の急速充電インレットを全車標準装備

- ・外出先で急速充電器が使用可能な急速充電インレットを全車に標準装備
- ・急速充電では電欠ランプ点灯から約50分で充電率80%※<sup>12</sup>になるため、外出先での買い物時やサービスエリアでの休憩中に素早い充電が可能
- ・急速充電インレットの採用により、「クルマの充電」と「クルマから建物への給電」ができるV2Hの利用が可能

※<sup>12</sup>：バッテリー温度25℃、50kW出力の急速充電器の場合。



V2Hのイメージ図

## Ⅱ. ベース車と同等の高い積載性と使い勝手の良さや、先進の安全装備

(1) BEVシステムのパッケージングにこだわり実現した、軽キャブオーバーバンNo. 1<sup>※13</sup>の積載スペース(e-ハイゼット カーゴ 4シーター)

- ・「e-ハイゼット カーゴ」は、大容量バッテリーや「e Axle」を床下に最適配置することで、ベース車同等となる軽キャブオーバーバンNo. 1<sup>※13</sup>の積載スペース(e-ハイゼット カーゴ 4シーター)と最大積載量350kgを確保し、積載性と使い勝手の良さを継承
- ・使い勝手の良い30個の室内ユースフルナットや、荷室床面の凹凸を無くし荷物が傷つきにくく出し入れのしやすいフラットな空間
- ・アッパートレイ、室内の頭上スペースを活用したオーバーヘッドシェルフ等、運転席から手が届く範囲を中心に豊富な収納スペースを確保、荷物の取り出しやすさや働きやすさを実現

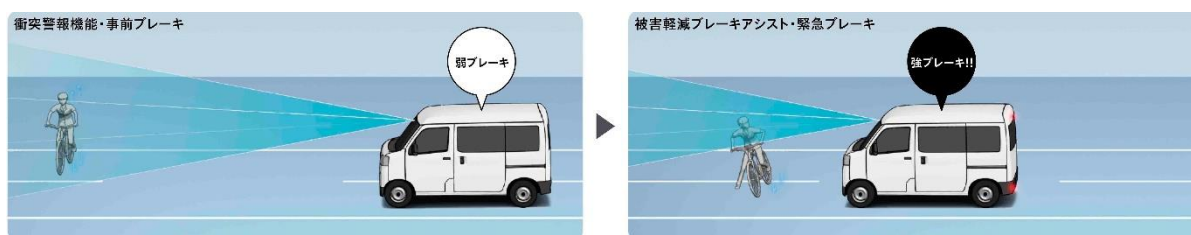
※13：運転席前方にエンジン（モーター）ルームを持たない車体構造の軽貨物自動車として荷室長、荷室幅（4名乗車時）、荷室高でNo. 1。2026年2月現在。ダイハツ調べ。自社および他社にも同数値の車があります。

(2) 最新の予防安全機能「スマートアシスト」を搭載<sup>※14</sup>

- ・ステレオカメラの性能を向上させ、より広範囲な検知・認識が可能となったことで、衝突警報機能（対車両/対歩行者〔昼夜〕）および衝突回避支援ブレーキ機能（対車両/対歩行者〔昼夜〕）が進化
- ・具体的には、横断中の自転車や、交差点での右折時に対向方向から直進してくる車両や右左折時に対向方向から横断してくる歩行者も認識可能に

※14：スマートアシストはドライバーの運転支援を目的としているため、機能には限界があり、路面や天候などの状況によっては作動しない場合があります。機能を過信せず安全運転を行ってください。詳しくは販売会社が公式のホームページをご確認ください。

### <横断中の自転車も認識可能>





＜右折時の対向車や右左折時の横断歩行者も認識可能＞



### (3) その他の充実した機能

- ・LEDヘッドランプやエネルギー効率の良いシートヒーター（運転席/助手席）も採用し、利便性の向上と共に電力消費を抑える工夫を実施

## Ⅲ. 内外装の質感にこだわり、乗商兼用で使える「e-アトレー」

- ・ベース車と同等の荷室スペースを最大限活用しながら、仕事にもプライベートにも活用できるモデルとして「e-アトレー」を設定
- ・ブラック加飾やメッキが特徴的なエクステリア、黒を基調としたインテリアで質感を向上
- ・両側パワースライドドアなど、利便性の高い機能を設定



e-アトレー RS エクステリア ※15



e-アトレー RS インテリア ※15



e-アトレー RS シート ※15

※15：オプション装着車。

以上